

第 3 回
第四期武蔵野市学校教育計画
策定審議会

令和 5 年 1 1 月 1 3 日
於 武蔵野商工会館 4 階 市民会議室

武蔵野市教育委員会

第3回第四期武蔵野市学校教育計画策定審議会

○令和5年11月13日（月曜日）

○出席委員（11名）

会 長	橋 本 創 一	副 会 長	奈 須 正 裕
委 員	相 原 雄 三	委 員	鈴 木 健 太 郎
委 員	竹 山 正 弘	委 員	安 島 知 江
委 員	室 岡 良 浩	委 員	古 田 順 子
委 員	金 子 知 子	委 員	足 立 宜 親
委 員	藤 本 賢 吾		

○欠席委員（1名）

委 員 櫻 井 乃 梨 子

○事務局出席者

教育企画課長	牛 込 秀 明	指 導 課 長	荒 井 友 香
教育支援課 教育相談支援 担当課長	勝 又 玲 子	統括指導主事	高 丸 一 哉

○次 第

1. 開会

2. 議事

（1）委員による発表

（2）子どもの学習と生活に関する調査（教員対象）の結果速報

（3）第四期学校教育計画の基本理念について

（4）その他

◎開会の辞

○牛込教育企画課長 それでは、定刻になりましたので会を始めたいと思います。

まず、資料の確認です。次第に書いてあります資料1、2、3、4、ありますでしょうか。大丈夫ですね。

それでは、橋本会長、お願いいたします。

◎議事

○橋本会長 それでは、これより第3回武蔵野市学校教育計画策定審議会を始めさせていただきます。

皆様に本日の次第を配付されていると思いますので、この次第に沿って進めさせていただきます。

議事の、まず(1)委員による発表です。こちらは小・中学校における特徴的な取組について、二人の委員に前もってお願いをしておりますので、ご発表いただきます。

発表時間は全体の進行の都合で、大変申し訳ありませんが5分程度でお願いしたいと思います。

ご質問についてはお二人の発表が終わってからお受けしたいと思います。それでは、ご発表をよろしくお願いいたします。

○委員 それでは、よろしくお願いいたします。

資料の1として準備をさせていただいております。よろしくお願いいたします。

児童の思いを実現する教育活動ということで本校が取り組んできたことを、今日お示ししたいと思います。

表面が、実践1となっております。以前少しお話をさせていただいたものにもなるかなと思いますが、本校には「関前スタンダード」という、簡単に言うと学校生活の決まりがあります。それを子どもたちが参画して改訂をしたというものです。

今回、左側に矢印でその流れを示したんですが、まず一番最初にアンケートを取りました。全校1年生から6年生まで各項目のアンケートを取りました。これは教員側からの仕掛けです。それを受けて、教員に考える時間を取りました。その中で、6年生の担

任が武蔵野市民科を使って、よりよい「関前スタンダード」を考えようという学習の設定をして、子どもたちが学びを始めました。

6年生の中で学びをしていくうちに、どのような進め方をしていけば良いとか、どんな伝え方をすれば自分たちが考えたことが反映されるだろうという方向に学びが進んでいって、児童会議での提案ということを考えて、資料に掲載した小さな写真なんです、6年生のクラスの代表が児童会議に参加して提案をしました。

それを受けて、教員が動きました。まず、職員会議で特別活動部から提案があって、それを生活指導部が集約をしました。資料右側は、せっかくなのでICTを使ってやったというのを示してあるだけなんです、このように検討を重ねて、実際に3学期のうちに完成をしました。なぜ3学期かというと、提案をしてくれた6年生に返すところまでを大事にしたかったので、年度内に行いました。

実際に改訂したところ、少し変化を加えたところ、これは子どもたちが言ったものをきちんと全て受け止めた上で、ちゃんと大人も考えた上で変更したという流れがあります。学校の決まりって決まっているものなので、子どもたちは受け身で取り組む、守らねばならぬというところが、子どもたち自身で改訂することができるという思いを与えられたというところが大きいのかなと思っています。

裏面にいっていただいて、急ぎ足ですが、もう一つ、中学年が実践した「千川上水をよりよくするための」という資料です。

先ほどの会でも話がありましたが、セカンドスクールのほかに4年生がプレセカンドスクールというものに行っております。本校では静岡県の島田市に行っています。大きなテーマで「お茶」があるんですが、それとは違った取組をやったという実践です。

本校は、近くに千川上水が流れています。千川上水、実際に武蔵野自然塾の方と一緒に入りました。それが資料右側の小さな写真です。千川上水の、生き物だったり植生だつたりについての、今の実際を知る。その上で、プレセカンドスクールでは、静岡県大井川の近くに行くんですが、その支流の伊久美川というところが宿のすぐそばにあります。そこで水生昆虫の観察をしました。千川上水と伊久美川の比較をしました。そして東京に戻ってきて、千川上水をよりよくするためにできることを考えるという。武蔵野市民科は5年生からなんです、市民性を育むための教育活動として取り組みました。

自分たちで考えたことを誰に伝えるにはどうしたらいいだろうかと子どもに聞いたところ、一番偉い人という意見があって、では、ということで地域コーディネーターの

方をお願いをして、市長さんに来ていただくことができました。実際には、市長だけではなく緑のまち推進課の方、あとはずっとお世話になっている自然塾の方にも来ていただいて、子どもたちは提案をしました。

ここに一部だけ書いたんですが、先ほどの話とちょっとリンクしちゃうかもしれませんが、すごくICTを活用して調べました。子どもたちが知らないはずの、かつての、字が違う「仙川リメイク」なんてものも子どもたちは調べていて、そのときと同じようなことを千川上水でもやってくれないかですとか、適した植物を植えてほしい、その植物とはというのを調べて発表したりとかの提案がありました。4年生がやったんですが、とても細かく調べていて、それに対して来てくださった大人の方たちも真剣に答えてくださって、確かにその計画はかつてやったよとか、子どもたちの身となるような答えをしてもらえたのがすごく大きかったかなと思います。というのが、4年生での実践でした。

最後です。児童主体で行う児童会議ということで、先ほどの会でも少しお話をしましたが、本校では学級活動、特に話し合い活動に重点を置いて取り組んでいます。それとは別に、各委員会の委員長と各クラスのクラス委員が集まって行う児童会議が不定期であります。この不定期というのは、必要に応じて行うからです。この児童会議というもので話し合いの方法も身につけています。あわせて、各学年でも学級活動、話し合い活動のときに同じルールで行うようにして、話し合いをどう行うかを子どもたち全体で身につけるようにして、児童会議につなげているという取組もしています。

この活動があったので、先ほど一番最初の「関前スタンダード」の取組もここにぶつければいいんじゃないかという子どもの考えにつながったという、こうつながった取組なんだろうなと思っているところです。

以上になります。ありがとうございました。

○橋本会長 ありがとうございました。

それでは、続きまして、発表をよろしくお願ひします。

○委員 では、よろしくお願ひします。

第三中学校の教育活動について、子どもたちが大きく関わる部分をご紹介します。

まず、1点目は「くぬぎ祭」という文化祭があるんですけども、本校は2日間を実施してきています。文化活動の発表の場ということで捉えています。

くぬぎ祭の中でも舞台発表部門の①、②のクラス劇、学年劇、これが大きなメインに

なっている活動です。2年の学年劇は学年でつくる劇になります。内容は、9月の地域防災訓練も踏まえて、3.11の状況を理解した上で、「もしイタ」という、東北地方の高校が、高校生がつくった劇を題材として取り組みました。

先ほどの会でも、小学生も劇をつくっていく上で自分たちで考えながらという部分が多々あるという話もありましたけれども、実際、先日2年生がやった劇でも、最初に大体の道筋は教員が作り出しますが、いろいろな役回りだとかそういうところは、進むにつれて子どもたちがチームで、どうしていくか、どうしようか、そういうふうな話し合いをしながら完成させていく。例えば主役の子が、「津波で流された」というこのセリフをどういうふうに言ったらいいのか、そのことを劇団の方に来ていただいてご指導いただく場面もあったんですけども、どういうふうに言ったらいいでしょうかって子どもが問いかける。そうしたところ、劇団の人からも、そうだったら当時の状況が分かるようなものを調べてみるといいんじゃないのかとアドバイスをいただく。いろんな映像とかありますので、そんなことを調べながら、その子ども自身が納得してセリフを言えた。あと大道具も背景も音響も全部、自分たちの体で表現する。そのことも劇をつくっていく上で全体を見ながら、子どもたちが自主的につくっていったという部分になります。

①番の3年生のクラス劇、これは4年ぶりにやったんですけども。これは各クラスで、どういうものを主題として訴えようか、子どもたちが考えて題材を選んでやっていくというものになります。担任は、どうするか、どう考える、そのくらいの働きかけで、あとは去年やった学年劇を基に、クラスに分かれて少ない人数の中で子どもたちが作り上げるものになります。中に、こういう話もあります。担任がこの劇がいいんじゃないのかと言ったときに、子どもたちは、いや違います、自分たちはこれがやりたい、というふうに意見を言って、自分たちが選択した劇をやった。それでいいんじゃないかなと思うんですが、本校ではそうした活動をしています。

大事なものは、演ずる子どもたちが何を観客に訴えたいのか、そのことを自分たちで考えて表現をどういうふうにつくろうか、そういうふうな過程が本当に大切な創作の部分だろうと。その中には、いろいろなものを調べることも当然ありますし、劇の間に映像を映す場面もありますし、そういったことを駆使しながらやっている活動になります。これがまず1つ目、三中ならではの特徴的な活動だと捉えています。

2番、3番は、これはもう市内の各中学校やっている職場体験、セカンドスクール。

各学校によって事前・事後学習の在り方というのは違うとは思いますが、職場体験に関しては、本校では、学んできたことをステージで劇を交えながら発表するということも、子どもたちがやりたいということで取り組んでまいりました。もちろん内容的には、武蔵野市民科と連動していますので、どういうふうに社会参画していくか、そういう意識も考えながら子どもたちが取り組んできたということになります。

セカンドスクール。これも各学校、行っていると思います。実行委員を決めて、プログラムはあるんですけれども、それぞれのプログラムでどういうことを学びたいか、そのためにはどういうことを調べて、どういう事前学習が必要かというところを、丁寧にやってきています。

最後の4番。中学校ですので、生徒会活動はすごく盛んだと思います。本校は「責任ある自由」という言葉をすごく大事にしていますので、勝手、わがまま、そういうものじゃない、責任ある自由というのを念頭に置きながら生徒会の活動をやってきています。

もちろん各種委員会の活動は子どもたちが自主的に運営しているんですけれども、その生徒会活動の一例として、8月31日に生徒会主催のディベート大会をやりました。これも生徒の中からやりたいという提案がありました。どういう内容をやりたいかということについても、全校に呼びかけてテーマを集めるんですけれども、その中で、本校は制服がなくて私服なんですけれども、三中は私服がいいか制服がいいか、どう思いますかというところでずばっと、昼休みにレクリエーションという捉え方でやってきました。本当にたくさん子どもたちが体育館に集まって、基調提案する生徒がいて、それぞれ分かれて意見を言い合い、見ている生徒たちにもマイクを回して、あなたはどう思いますかというのを生徒会の委員が運営しながら意見を聞く。最後の、どちらがいいでしょうかという結論は、ほとんど私服がいいという結末になったんですけれども。

生徒の中からそういうことをやりたいというのがあって、自分たちで運営して、そうだねというのを共有できるということが中学生なんだなと思っています。

雑駁ではありますが大きく2点、くぬぎ祭と生徒会活動の一端をご紹介します。以上で終わります。

○橋本会長 ありがとうございます。

お二人から、小学校、中学校についてのご発表がありました。

お二人にご質問などありましたら、どうぞお受けしたいと思いますので、どなたでも結構ですが、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○委員 ご質問なんですけれども、初め、1回目ですかね。アンケートで変えたいことありますかみたいなアンケートで、すごく少なかったという話があったと思うんですけれども、まさにここにアクセスするようなお話で、面白いなと思いました。

一方、自分が質問したいなと思ったのが、この「関前スタンダード」というのは、どちらかという、まさにやるべきことまで落ちていると思うんですけれども、何かもう少し上段の、それこそビジョンというか、何でそのやるべきことが設定されるのかみたいなことを考えさせる機会とかというのはあったりするんでしょうか。

○委員 「関前スタンダード」の中には書かれてはいないです。ただ、学級指導する中で話をするという形はとっています。そのために、ちょっと見づらいんですけれども、資料1枚目の下のほうになるんですが、「検討を重ね、改訂版を完成」という枠の左側が児童用の紙、右側は教員用の指導資料というふうに2種類作っているんです。その教員用の指導資料に今お話があったようなところ、こういうふうに学級指導をしていきたいと思いますというところを書いています。

○委員 それがあって、その「関前スタンダード」というのが設定されているんだよというの、いろんな人が分かった状態で議論が重ねられるという感じですかね。

○委員 はい。

○委員 はい、ありがとうございました。

○橋本会長 ほかに、いかがでしょうか。どうぞ、何でも。

○委員 質問というよりは、お二人の学校での実践を拝見していて、やっぱり未来の創り手を育てていくためには、やっぱり自主的、自治的な部分を子どもたちにたくさんやらせていく活動を、どう教育現場が意図的につくっていくかということがすごく大事なんじゃないかなと思いました。いわゆる教育課程の中で、学習指導でいろいろやらなければいけないことや、もちろんそれと並行して生活指導もいろいろありますけれども、これからその未来の創り手、そしていろんな価値観の中で合意形成しながら、よりよい自分をつくっていく子どもたちを育てていくためには、これからの教育の中で、子どもたちが自分たちで考えて、決定してそして行動していくことが必要だと思います。例えば、この「関前スタンダード」なども、子どもたち自身が自分たちでルールを決めていくとなれば自己責任が伴うわけです。そういったところで、自分たちがあるべき姿をまた見つめていく。武蔵野市民科という中でやるのか教育課程の中でやるのかという辺り

は、また教育委員会と相談しながらだと思うんですけれども、やっぱり、子どもが自主的に自治的に物事を考えていくような教育を、意図的、計画的に豊かにやっていくということがすごく大事だなと、お二人の実践をもって強く思いました。

ですからセカンドスクールなども、私は実際に中身がどういう活動をしているか分からないんですけれども、おおむね子どもたちに委ねて、考えて、そして、ここはまた違う別の体験ができるような場所の中で何かを生み出すようなことをやろうとしているのではないかと思います。そういった意味ではもしかすると既存のプログラムをまた見直さなければいけないだろうし、何かそんなようなことをきっかけにしながら、新たな教育の方向みたいな、いわゆるICTを使う部分も大事にしながらも、感性的な部分として、子どもたちの主体的な活動を組み込んでいく必要があると思います。

また、今日、先ほどの意見交換会の中で教育長から発言のあった授業観の転換であったり、奈須副会長もおっしゃっていました、ICTがあることによってスキップできる部分もあるとすれば、スキップによって生み出される余裕な部分で、その学習過程においてより発展的に、子どもたちが自ら問いを生み出していくような授業形態だったり授業プロセスだったり、そういうようなものも今後、お二人の学校の実践から何か未来につながるようなものがすごく感じられたというのが印象です。

○橋本会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか、ほかに。どうぞ。

○委員 すみません、「くぬぎ祭」の中学校3年生のクラス劇のところで、中学校3年生がクラス劇に取り組んでいるという事例に初めて触れまして。これは、3年生という学年とクラスごとにされているということで、どれだけの準備期間があるのかなというところにすごく興味があります。

今、他の委員もおっしゃったように、自主性を育む取組の仕方っていろいろあって、学校行事はそれが顕著に表せるところではあると思うんですけれども、今子どもの様子とか見ていると、結構、行事が大小いろいろあって、もしかしたらもう少し少ない数にして1個に注力するのもいいのかなと。

実は息子の話になるんですが、今、高校3年生でして。たまたま息子の行っている学校が、実は1年生から3年生までクラスが変わらないというのを特徴にしている、それはなぜかという、高校3年生のときのクラス劇に向けて一直線に進むという。

(「面白い」の声あり)

○委員 そうなんです。

1つに長い時間かけて注力するというのも、自主性を育むのに、お子さんによってはその行事との距離の取り方であるとか、距離の取り方についてのお互いの理解、一生懸命な子とちょっと手を抜く子と、もう自分は勉強だという子と、何かそのあたりも、みんなみんな苦汁を乗り越え行くという姿を3年間見ている、子どもってこれで本当にこんなに成長するんだというのを親として実感することができました。それと近しいことを、もう既に中学校の3年生でされているということに非常に感銘を受け、何か準備期間とか、多分受験に向けてという時期に非常に難しいこともあるのかなとか、そのあたり教えていただければありがたいです。

○委員 劇に向けては、1学期の5月下旬ぐらいから道筋をつくり始めます。どういう劇をやるか。実際に具体的に動き始めるのは、2学期の中間考査が終わった後になります。だから2週間ちよいあるかどうかぐらいでしょうかね。それがすぐスタートできるように、いろんな打合せなりをずっと1学期から積み重ねてきているということになります。3年でクラス劇ができるのも、2年で学年劇をやっていますが、役者も限られた生徒になるんですけれども、3年になってクラス劇をやるときには、自分たちで題材を選び、自分たちで役者、音響、照明、大道具、小道具、衣装、全部を担ってみんなでやるんだよということで動いてきています。

それが三中の伝統だと思うんですけども、今年は4年ぶりということで、子どもたちはクラス劇を見ていませんでした。去年のくぬぎ祭というのは、2年は学年劇、3年も学年劇をやったんです。それはコロナがあって、クラス劇に分けたときに役者がコロナになったんではどうしようもない。だから3年も学年劇にしてダブルキャストでやろうということだったのですが、その2年でやった経験が今年の3年に生きていました。

昨年度のくぬぎ祭のテーマは、「リ・スタート」、新しい出発、再生ということを子どもたちは掲げました。で、今年の「Remember」というテーマも子どもたちが決めてやったんですけども、本来のものがつくれたということと、今までに自分たちは見ていないけれども、後輩に対して自分たちを超えるんだよというものをつないでくれているのはありがたいなと思います。

そんなふうな形で、準備は1学期途中から始めているということなんです。

○橋本会長 ありがとうございます。

すみません、もっとお聞きしたいんだろうと思いますが、今日、実は議事で3番目に基

本理念というところがありまして、結構重たいところを少し討論する時間も取りたいもんですから、すみません、この辺で切り上げさせていただきます。また追加で何かありましたら後ほどということで、ありがとうございました。

では、続きまして、議事の2番、子どもの学習・生活状況に関する調査の結果速報ということで、事務局からお願いいたします。

○牛込教育企画課長 では、資料の3をご覧ください。

子どもの学習と生活に関する調査。今回は子どもと保護者を対象とした調査の報告をしましたが、今回は学校の先生ですね。教員を対象としたアンケートを7月から8月にかけて行いましたので、そちらの報告をいたします。

まず、回答率については67%ということでした。

Q1、2、3については、それぞれの属性に関する回答であります。Q4以降が質問となっておりますので、ポイントを絞ってご説明をします。

まず、Q4です。やりがいを感じているかという質問につきましては、「よく感じている」、「感じる時もある」というのが合わせて小・中ともに90%を超えておりました。

続きましてQ5です。どんなときにやりがいを感じるかという質問で、小・中1位は「子どもの成長を感じたとき」ということと、あと小・中で若干違いが出たのが、小学校のほうが「同僚や管理職から自分の仕事が認められたとき」が比較的多かったということ、中学校については「子どもからの相談を受けているとき」また「保護者の悩みなどの相談を受けているとき」が比較的高かったという結果が出ております。

Q6です。行事の際に子どもの意見を聞いているかという質問で、こちらのほうは小・中とも90%が「よく聞いている」または「少しは聞いている」という回答でした。

Q7は子どもたちに行事の目的を考えさせているかということで、「たまに考えさせている」、「よく考えさせている」、合わせて95%を超えておりました。

Q8です。学校のきまりやルールの中でおかしいと思ったり変えたほうがよいと思っているものはありますかということで、「ある」が4割を超えております。中学校のほうが47%ということで、高かったです。

質問の9。今後、学校教育でもっとやっていくとよいと思うのはどれですかということで、これは「働き方改革」が8割を超えておりました。小学校については第2位は「特別支援教育の推進」、中学校については「不登校児童生徒への支援」が高かったで

す。

続きまして、次のページですね。

質問の11です。保護者、地域、専門家の協力を得たい取組はどれですかということで、こちらのほうも「働き方改革」が最も高かったです。小学校については、「地域や関係機関と連携した教育の推進」が高かったです。中学校については、こちらのほうも「不登校児童生徒への支援」が2番目に高かったと結果が出ております。

そして、Q12です。こちらが武蔵野市では学校に支援人材を配置、派遣しておりますが、これらの人材との連携を進めていく中でどのような課題があると思いますかという問いです。こちらは、小・中ともに「勤務時間内に打ち合わせをする時間がない」というのが最も高かったです。あとは、中学校については、「学校の実態に合った人材を探すことが難しい」というのが比較的高かったという結果が出ております。

続きまして、次のページです。

Q13です。市の施策で知っているものということで、認知度の調査をいたしました。こちらは、「武蔵野市民科」また「学校司書の配置」については高かったという結果が出ております。あとは、差がついたのは「デジタル・シティズンシップ教育の推進」ということで、こちらのほうは小学校、中学校では認知度に差がついたという結果が出ております。

そして、Q14、15は「子どもの権利」についての質問で、認知度については「内容を知っている」、「名前だけは知っている」ということで、ほとんど知っているという結果でございました。

そして、Q15は「子どもの権利」を教えるに当たっての難しさについて聞いたところ、小学校については「子どもに関心を持ってもらうのが難しい」というのが比較的高かったです。中学校については「教える時間がない」というのが高かったというところでございます。

説明は以上になります。

○橋本会長 ありがとうございます。

先ほどの教育委員との意見交換の中でも出ましたが、教師の多忙の中での先生方がどう考えているかを調査していただいた速報値が出ていますが、これについて事務局にご質問とか、または意見でも感想でも結構ですので、どうぞご発言ください。

いかがでしょうか。はい、どうぞ。

○委員 このQ2、武蔵野市の学校に勤務した年数というところで、1年未満と5年未満の先生の割合がかなり高いと思うんですけれども、これは何年ぐらいで変更するとか、というよりは、武蔵野市に来た先生方に武蔵野市のこういう特徴ありますよみたいなお話をする機会あるんでしょうか。

現状、校長先生も副校長先生も武蔵野市を知らない、5年未満の先生がお二人ともというケースもある中で、先ほどの意見交換の中でも武蔵野市の特徴は、先生たちも何年もやっていると分かるよみたいなお話もあったんですけれども、先生方が、校長先生や副校長先生をフォローするとか、コロナの影響で分からないことが分からないまま、武蔵野市が分からないまま進んでいっているという認識になるんですけれども、その辺はどんなふうに対応されているんでしょうか。

○荒井指導課長 ご質問ありがとうございます。

本市の場合は、年度当初に、ほかの自治体から転入した先生方に対してのみ、武蔵野市の特徴を教育部長からご説明をいただく時間を研修会として取っております。

○委員 安心しました。ありがとうございます。

○橋本会長 ほかにいかがでしょうか。

この数字を見ていただいても、武蔵野市にいらっしゃってからの年数が少ない先生方が今多くなってきて、先ほどの発表の中でも、文化祭知らない、行事を知らないという教員がいるという話もありました。コロナもありましたので、そのあたりも考えていかなくちゃいけないところなんですけれども、この結果について、ほかでも結構です。どうぞ。

○委員 今の質問の続きで、学校の中のこと以外の地域のこととか、青少協の絡みとか、コミセンとの絡みとか、そういうのも含めて新しい先生に教えていただいているのでしょうか。

○荒井指導課長 まず、市全体のことについて伝える。どのような特徴を持っている自治体であるかに加え、吉祥寺、三鷹それから武蔵境と、地域でも随分特徴が違いますので、そういった大きい部分をお伝えしているというところなんです。ですので、それぞれの学校の特徴については、それぞれの学校に行ってから聞くことになるので、むしろそこは割愛されていると考えていただきたいです。また、コミセンなどの説明はあるんですけれども、具体的な関わりはコミセンごとにまたこれも異なってくるところがあるので、そういった取組を自治体として行っているという非常に大きい部分を伝えるのが時間的にはやっとなかなと思います。ですので、青少協についても触れますけれども、中身を細か

くというイメージはあまり持たれないほうがいいかなと思います。

○橋本会長 何か追加でありますか。

○委員 中高生リーダーについては。

○荒井指導課長 そこまでは……

○委員 できない。

○荒井指導課長 むしろ自治体としての特性で止まっていると思っていただいたほうがよろしいかと思います。

○委員 分かりました。ありがとうございます。

○橋本会長 ほかに、いかがでしょうか。

どうぞ。

○委員 質問なんですけれども、武蔵野市の小学校、中学校に勤務されている先生方が別の学校との交流というか、何かそういった場というのほどれぐらいあるんでしょうか。

○荒井指導課長 武蔵野市の場合は「武教研」と呼んでいるんですけれども、小・中学校の先生方がそれぞれの専門性、教科などに応じて集まって勉強する会を持っています。ですので、そういったところでほかの学校の先生同士で交流したりということもあります。それが一番大きいところだと思うんですけれども、それ以外に、例えばICTの活用について、それぞれの学校の代表者が集まって交流して意見交換をしようとか、そういったテーマごとにとということも委員会として開催をさせていただいております。

○委員 ちなみに、その時間は、学校の子どもを教える時間ではない時間にやっているという認識で大丈夫でしょうか。

○荒井指導課長 いえ、勤務時間中に出張として行われますので、例えば中には授業を変更してその時間を空けて、参加される先生方もいらっしゃいます。

○委員 専任の先生に任せて来られるとか、そういうことですね。

○荒井指導課長 そういったこともありますし、小学校などの場合は、担任を持ってしまっていると難しかったりするので、学年のほかの先生に頼んだり副担任の先生をお願いをして出張されているという方もいらっしゃいます。

○委員 ありがとうございます。

○橋本会長 ほかに、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○委員 さっきの学校に勤務した年数のところでお伺いしたいんですけれども、先ほどの

意見交換会でも、教育委員から、つくられた理念がどこまで浸透しているかみたいな話がありました。私も分からないことも多いんですけども、1年に1回、事業計画とかつくられるとすると、その理念浸透ってどういう形で進められていって、あるいは浸透しているかどうか、シンプルに聞いてみたいなというところもあります。

○高丸統括指導主事 理念浸透というところで言うと、5年に1回、学校教育計画というのが策定、改定されておりますけれども、毎年、教育課程届の説明会というのを設けております。これが、まさにこちらの学校教育計画を一年一年どういうふうに進めていくかという場で、指導課としてこういったことを来年は大事にしていきたいということをお伝えさせていただいている場となっております。これを踏まえて、先ほどからお話にある教育課程の編成について、校長先生を中心に各校で具体的に何をしたいかということをつくっていただいています。

また、4月になったら、今年から特にそうしているんですけども、指導課として、こういったことを大事にしていきたいですということを事業説明会の一番頭にもう一度説明をさせていただいています。また、例えば生活指導であるとか教務主任とか、そういった会でもお話をすることで、浸透させております。

○委員 ありがとうございます。

いや、とても難しいなと思っていましたですね。今、自分は仕事である製品を担当するマネージャー、プロダクトマネージャーという仕事なんですけれども、ビジョンを知ってもらって、いろんな人に関係するということを知って自分なりに落とし込まないと、やっぱりなかなかいいものは上がってこないなというのはあって、本当いろんな苦労があると思うんですけども、その辺も何かお話を聞けるタイミングがあったら、まさに現場の方々からもお話聞いてみたいなと思いました。

ありがとうございます。

○橋本会長 ありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。ご質問、ご意見、いかがですか。

○委員 教員からの意見については、67%の回答率ということなんですけど、先ほどお話ありましたけれども、働き方改革の推進については、学校教育でもっとやっていくとよいと思うところで最も要望が高くなっておりますので、現場としてもやはりそこがまずは必要のところなのかなというところが正直なところですよ。

ですので、教育委員会としてもその職場環境の改善というところは考えていかなきゃ

いけませんし、今も100時間超えという教員もいますので、そういうマネジメントを校長先生からもいろいろお伝えしてもらっています。80時間超えですと過労死ラインになりますから、まずは心身の健康をというところを指導課からお話しているところです。

○橋本会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか、ほかに。大丈夫でしょうか。

また追加で何かありましたら、後ほどお願いします。

それでは、今日はこの3つ目の議事が恐らくいろいろご意見いただきたいなというところですので、議事の3番目、第四期武蔵野市学校教育計画の基本理念に入りたいと思います。

第1回、第2回の審議会の意見を集約していただいた形で、事務局でおまとめいただいています。武蔵野市の学校教育を通してどのような子どもに育ててほしいかについて、委員同士で議論を深めていきたいと思います。

まずは事務局から、資料4についての説明をお願いしたいと思います。

○高丸統括指導主事 まず、資料4、「第1・2回審議会での意見等の整備・分類」の資料をご覧ください。

本日議論いただきたい内容につきましては、今、会長からもありましたが、資料の一番下です。これまでの議論を基に「武蔵野市の学校教育を通してどのような子どもに育ててほしいか」、ある意味、この第四期武蔵野市学校教育計画の基本理念につながるのところについて、皆様からそれぞれのお立場でご意見をいただきたいと考えております。

第三期の武蔵野市学校教育計画では「自ら人生を切り拓き、多様な他者と協働してよりよい未来の創り手となる力を育む」を基本理念としておりますが、まさにこの第四期ではどういうふうにしていくのか、ご意見いただきたいと考えております。

ご意見をいただく上で、1回目、2回目の審議会でどのような意見が出されてきたのかということ、事務局で意見を分類・整理させていただきました。分類名や番号順につきましては、あくまで事務局でつくった便宜上のもので、これで全てというわけではないかと思えますし、皆様の全ての意見を反映させられているかと言うと、できていないところもあるかもしれませんが、そこはご容赦いただければと思います。

まずは構成ですけれども、【委】と書かれているものは、審議会での委員の皆様の発言を基にしたものでございます。【学】と書かれたものは、学識経験者の皆様に発表いただいたものを基にしたご意見。【レ】と書かれているものは、第1回目の審議会で行

いました第三期の進捗状況の報告を基にした意見。そして、（子）あるいは（教）あるいは（保）のアと書かれたものにつきましては、今回と前回、報告させていただきました武蔵野市子どもの学習・生活に関する調査を基にした意見でございます。

これらを便宜上、分類をさせていただきますと、全部で10個にまとめさせていただきました。

1つ目が「学校運営のあり方」ということで、教育課程の編成や働き方改革についてです。まず、委員の皆様から、社会の構造が大きく変わる中で教育だけ変わらないというのは不可能であろうということ、そしてこれからの学校では、自分で考え判断・行動できる子の育成が学校が変わるには必要ではないかといったこと。そして、育成する資質・能力を明確化していくことであるとか、学校評価を通して教育活動を見直し、改善するスパイラルをやっていく必要があるのではないかな。また、授業の一、二割が変わっていけば学校も大きく変わっていくのではないかなということや、その反面、働き方改革の推進ということにつきましては、教員のアンケートあるいは保護者のアンケートからでもかなり多くの意見が聞かれたというところがあります。

次に特に皆様からご意見いただいたところとしては「子どもの居場所づくり」というところがあります。不登校の子が一人で悩む状況をどうにかしたいというところ、また、委員の皆様だけではなくアンケートの結果からも不登校支援のニーズは非常に高いのではないかなというところ、別室登校や教室以外の居場所づくりというのは非常に効果的ではないかといったことであるとか、そういった不登校の子だけではなく、特定の領域に才能を持つ子への支援であるとか様々な環境の子の支援ということも必要ではないかなという意見が出ております。

また、不登校への支援という意味では学習者用コンピューターの活用というところはかなり進んできているのではないかなということで、そういったところと絡めまして、3番「ICTの創造的活用」というところで分類をつくらせていただきました。

このICTを今後どう有効的に活用できるかというところであるとか、子どもたちのアンケートでは、結構このICTを使った動画づくりとか映像づくり、プログラミングということや学習者用コンピューターの活用ということについて、ぜひやっていきたいということが多く聞かれておりました。また、教員の中からは、デジタル・シティズンシップ教育の推進というところが非常に大事ではないかなというところも、アンケート結果の中では多く出ているコメントでございました。

そして、ICTの活用というところに関連させまして、これからの学び方というところで、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」というところについても分類をつくらせていただきました。

こちらにつきましては、細かいことを覚えるんじゃなくて活用の効く知識ということが非常に大事じゃないかと、子どもが学ぶ環境づくりということや、子どもの気づきからの課題追究というのが大事ではないかといった、そういった学び方についてご意見いただきました。また、保護者や教員のアンケートからは、学び方というところに関連して、学習の基盤となる資質・能力の育成ということも大事じゃないかということが聞かれています。

子どもたちや保護者のアンケートで特に多かったのが、この「体験活動の充実」というところでした。外国語活動、プロとの交流、自然との交流、そういったところがやってほしいというところで、ご意見は非常に多かったです。

6番目「多様な価値観や意見を生かした学びの充実」。こちらにつきましては、学識の皆様から、これからの時代の中で納得解や最適解を求め続ける子どもの育成ということが大事ではないかという意見が出されまして、教員のアンケートの中でも多様性を生かした学び、学級活動や生徒会の充実、そういったところが必要じゃないかということが出ております。

また、委員の皆様や様々な議論の中で、「子どもの意見表明・参加」というところについて様々な意見をいただいているところでもございます。ルールについての議論というのは、前回、特に多かったと思っております。

そして、8番目「市民性・社会参画意識の育成」というところも非常に大事ではないかということで、ここは特に委員の皆様からもご意見をいただいているところです。

関連して、9番で「学校・家庭・地域等の連携」というところも大事ではないか。委員の皆様から、PTAや保護者も教育の一端を担えないかといった力強いお言葉をいただいたりですとか、地域が関わることで第三者から褒められることで自尊感情が高まるといったこと、また地域の取組が子どもの居場所になることを学校にも理解してほしいといったご意見もいただきました。

10番目として、少し上に関わりますけれども「今後の特別支援教育のあり方」ということで、学識の方からご発言いただいたことや、教員のアンケートの中でも特別支援教育の推進ということが大事ではないかということが出されております。

こうしたこれまでの議論を踏まえまして、「武蔵野市の学校教育を通してどのような子どもに育ててほしいか」、皆様それぞれのお立場から、ぜひ今日は忌憚なくご意見いただければと思っております。

私からは以上です。

○橋本会長 ありがとうございます。

ということで、これは事務局のほうでご苦労されて、今のところ10個のカテゴリーでまとめていただけていますが、今の統括のご説明にあったとおり、事前の打合せでも、実はこのカテゴリーは横軸、縦軸だけでなく、もしかすると三次元でつながっているようなこともいろいろあって、なかなか図式化するのは難しいんです。実は今日はこの一つ一つ細かいところではなくて、委員の皆様からもっと広げていただいたり、広い視点から、これはいいねとか、これがないんじゃないとか、いわゆるキーワード的なことを出していただいて、それを理念につなげていきたいと思っております。あと20分ほどなんですけれども、どうぞ忌憚のないご意見をお願いいたします。

いかがでしょうか。

このまとめ方についてのご感想でも結構なんですけれども。

○奈須副会長 難しいと思うんですけれども、上手にまとめてくださっていると思いました。

先ほどの教育委員との意見交換の中でも、実践の具体、理念を具体化するという話がありましたけれども、そのときのキーワードが要ると思うんですね。例えば、子どもの意見表明とか、市民性・社会参画とか、子どもの居場所とかという話のときに、それがどういう質のものでどんな原理かということが大事だと思っていね。

例えば、最近、やっぱり民主主義ということをやろうという話はよく出ます。だから、その子どもの意見表明とか、市民性とか参画という話も、実際にやっていくと色々な原理や色々な姿があると思うんですけれども、やっぱり上位のレベルで常に一貫してみんなが共有できること、それは学校だけじゃなくて社会全体も共有できることが多分幾つか必要でね。月並みだけれども、それは、1つはやっぱり人権という話と、それが公正に保証されるという話だと思ってるんですけれども、その合意形成における民主主義という概念だと思うんですね。

だからさっきの発表の中であった、ルールメイキングの実践なんかもすごい大事だと思うんですよ。関前スタンダードの話って、子どもがああルールをつくり直していくと

いう話だと思うんですよ。やっぱり子どもの権利に対する意識が、昔と全然違っていて、そういうことが関前南小学校でできるということはすごいことだと思うんですよ。子どももそれを自覚しているということですよ。

それが多分もう一段概念化して、何かの言葉になっていくことが大事だと思っ
ていてね。だから、それは例えば権利ということであったり、民主主義ということであたり、それから、その仕組みとしては、ちょっと理屈っぽいですがけれども、僕らが社会科で教えている社会契約という概念だと思うんですよ、単純に言えばね。だから子どもたちが主権者で権利を持っていて、それを社会契約で。だって、武蔵野だってそうになっているわけですし、議会とか首長というのもそう。だから選挙をやるわけじゃないですか。

1つ思うのは、僕は、知識的、構造的に理解していることとこういうことがつながることが大事だと思っ
ていて、主に社会科で教えていること、あるいは一部道徳とかで教えていることで、体験的には特活で教えていることだと思うんですが、それが子どもにも、それから先生方にも市民の皆さんにも、こういう原理の下に子どもはこういうふう
に育てられるし、子どもにこんな力がつけばいいというのが幾つかあるんだと思うんですよ。

よく言われるのは、その人権という問題と、それが公正に保障されるみたいな話と、その手続きとか仕組みとしての民主主義みたいな話と、それから、最近言われているのが、人間が多様に存在して、多様性が認められるということが権利が認められるということであり、民主的な社会になるということ。多様性と包摂という、ダイバーシティとインクルージョンみたいな話は、すごくOECDなんかも言っている話でね。その居場所の問題とか特別支援とかの問題も、そうすると割と軸として通ってくるというか。そういう概念が、多分幾つかあると思うんです。だからOECDなんかだとダイバーシティ・アンド・インクルージョンという言い方をして、それを持続可能にサステナブルにしていくみたいな話がありますよね。

もう少し古い言い方をすると、学校は民主主義のレッスンをするんだみたいな話がある。これは、文科省の前の教育課程課の課長もずっといつも言っていて、結局、学校は民主主義のレッスンをするところだということをはっきりさせようと。結局この国は——仕組みは民主主義になっているんですよ、もちろん——でも、その意識が国民や子どもたちにちゃんと根づいていて、その権利をきちんとした形で行使できるような国民や市民や子どもになっているかというのはまだまだ怪しいんですよ。それは学校が未来

に向けてやることじゃないかみたいな話は、よくその方もおっしゃるし、私もそうだと思いますけれども。

それは社会科で教えているんですけれども、実を言うと小学校でも中学校でも高校でも教えているんだけれども、それが実感をもって子どもたちに学び取られて、それが市民とも共有されているかという、なっていない、典型的には、特に若年投票率の低さというところに出ているんじゃないかみたいな話はあってね。

つまり、そういうことを僕らがやれば、世の中が変わるとか僕らの人生が変わるといふ意識が弱いじゃないかという話は、国際的にも言われていて、でも、それは日本人の国民性とか無茶なことを言う人もいるけれども、そうじゃなくて、やっぱり教え育てていくんだと思うんですよ。冒頭の発表にあった各学校の実践って、それをやっていると思うんだけれども、それが例えば社会科で勉強したこととつながっているかという、まだ弱い気はするんですよ。それは日本全体、弱いと思うんですよ。

つまり、もう少しこの辺の話が、知識ベースの話とか概念ベースの話と結びついてきて、特別支援の話もそういう話として結びついてきたらいいと思います。その居場所とか特別支援もある意味で当然の子どもの権利で、それが公正に保障されるべきでとかいう話がこういう政策全体で共有されて、議会でもしっかり議論されるといいなと思いますけれども。

だから、ここにあることで全然いいんだけれども、多分もうちょっと上位の、さっきから別の委員がおっしゃっている理念的な部分ってそういうことですよ。多分、上位の理念的なもの。理念的なというのはスローガンじゃなくて、私は、かなり構造化された知識的な概念だと思うんですよ。それは、でも教育の話だけじゃなくて、それは市長以下、市の政策の方向性とか議会での議論とかいうことと対応してくると思うんだけれども、多分この国の教育、そういうのはとても弱かった。何かそんなことを思っていました。だから出ているものは、これでいいと思う。

○橋本会長 ありがとうございます。

あと、あれですよ。先ほどの教育委員との意見交換会でも、武蔵野市の独自性というものの発言もあったと思います。このことに関しての感想やご意見でも結構ですから。

○委員 この①番から⑩番まで事前に資料いただきまして、武蔵野らしさって何だろうと考える中で、やはり豊かな感性が、いろんな新たな課題を発見する基にもなるし、意欲にもつながるんじゃないのかな。この⑤に付随して、私はそう思いました。

それともう一点は、⑥番、⑦番、⑧番と関連すると思うんですけども、言葉についてはまた教えていただきたいんですけども、子どもたちが自治的に活動をしていく、その自治力、自治能力、そこがすごく大事なところだし、その要素は、ポテンシャルの高い子どもたちですから、さらに伸ばせるんじゃないのかな、そんなことを思っていました。

以上です。

○橋本会長 続けて、いかがでしょうか。

どうぞ。

○委員 今のご発言や、冒頭に発表いただいた内容で、共通しているのって、自治もそうですし、子どもたちがどうコミュニケーションしていくかということがすごい大事なんじゃないかなと思うんですよね。

先生からいろいろ教えられるというだけじゃなくて、自分たちでいろいろ気づくとか、同級生なのか下級生や先輩というのものもあるかもしれないですけども、そういう子どもたちの中で言われたことに対して自分はどう考えるかということ。自分の考えができてくるといったことが大事なのかなと思っています。どういう子どもに育ててほしいかと言ったときに、僕はコミュニケーション力とホスピタリティー力とマネジメント力を持った子ども。その根底にあるのはやっぱり、先ほどもお話ししたんですけども、自己肯定感をもって自分の興味につき進めるとか、自分の興味が気づけてそれに対して真正面に取り組めるですとか、何かそういったところがあるといいのかなと思ったんですけども。

社会人にとってもやっぱりコミュニケーションというのは、他人とどう付き合っていくかということですし、どう意見を交換しながら自分の意見も発信していく、自分はこう思うということをちゃんと確立していくということにもなると思いますし、マネジメント力というのはいろんな人のマネジメントというだけじゃなくて、セルフマネジメントという意味もあると思うんですよね。

だから、そういったところも含めて、やっぱり、さっき別の委員の発言にもありましたが、民主主義というところもそうですし、社会人になったときに自分はどう活躍するのかですとか、何かそういった視点で見ていただくと、分かりやすくなってくるのかなという気はしています。

以上です。

○橋本会長 ありがとうございます。

今いっぱいキーワードをいただきまして、本当にそうだなと思いました。

ほかにいかがでしょう。

○委員 私もたまにしか学校には行けていないんですけれども。コミュニケーション能力はやっぱり、いろんなポテンシャルの子が、本当に多様な子がいる中で、それぞれがコミュニケーションを取る姿を見ていると、本当にそれはとても根幹で大切な部分であるなど、そこが多分スタートラインになるのかなと思うと、コミュニケーションという言葉は今すごく大事ななど、お話聞いていて思っていた次第です。

○橋本会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょう。はい、どうぞ。

○委員 先ほどの委員のご発言のとおり、コミュニケーションってものすごく大切なことなんですけれども、それが難しいとされる子がとても多くなっているんですよね。そうすると、今現状、一番最初は小学校さえ特別支援学級へ行ってくださいとなる。

しかし、子どもはこれからずっとその場所で育っていくわけで、学校の中でも友達と関わりながら、少ない人数からスタートして社会的なスキルのトレーニングを積んでいって、できない子も積み上がって卒業していく。そうすると、それが強みになる。僕はできるんだ、先ほど言われた肯定感に変わり、子ども自身が色々なことにチャレンジして、誰かとコミュニケーションする。コミュニケーションを重ねて理解をすることでまた上達をしていく。

多分この民主主義という概念をまず植え付けるというか、その理解させるといいますか、そこが学びにあって、自己肯定感につながる。よくできた、よくできた、よくできたと言われることは多分、私たち大人でもうれしいじゃないですか。授業の中で、ただ手を挙げて答えに対して反省でというところでは、心に残っていないんです。

違う会議で武蔵野市の教員の応募がものすごく低かった、というお話を聞いたと思うんですが。

○荒井指導課長 東京都の教員採用試験で、武蔵野市ではないです。

○委員 すみません。東京都の採用試験の応募率がとても低かったというお話を伺って、その中でも、でも武蔵野市を選んで学校をやりたいです、みたいに、先生にここに来たいですと言っていたかかないとならない。話がちょっと飛んでしまうんですけれども、特別支援級や学校でやっていただいたこと、もちろん家庭でやっていただいたこと、地域でや

っていただいたこと、全部つながっていくので、そこをどういうふうにつなげていくかってものすごく難しいんですけども、でも、SSTなんです。ソーシャルスキルトレーニングを、どれだけたくさんの方が関わって、小規模に細分化しながらできるかというところで子どもの自己肯定感が上がり、自分のセルフマネジメントになり、自分の時間割がちゃんとできるというふうに変っていくのかなと思うんです。

そういった子どもとの関わりをうまくつなげていくに当たって、子どもの居場所づくりが学校だけではなくていいのかなと。不登校の方も含めて、例えば、私の知り合いでヨガとかダンスのトレーニングされている方が上手に不登校の方を引っ張り出すんですよ。体がまず寝たきりになっている子、横になっている子、椅子に座ってだらだらしている子が多いので、その方が教えて姿勢をまず正す。姿勢正すだけで、頭に血が巡り脳が活性化するとか、何かそういうところにも派生させて、全てにおいて学校の先生だけではないところに持っていきたいと思っています。

以上です。

○橋本会長 広くいろいろとお話しいただきました。ありがとうございます。

○委員 今まで青少協でやってきた中で、今一番思い出して印象に残っているのが、委嘱式の後に講演会があるんです。あれは成蹊大学の先生のお話だったと思うんですが、ペアレントクラシーといって、親の経済状況によっても地頭の違いが出るという内容でした。先ほどの教育委員との意見交換の中でも、武蔵野市はある一定のレベルに達していて、さまざまな経験値も高い子が多いという話があったんですけども、でも、やっぱり格差はあるわけで、それを地域で、例えばジャンボリーとか、そういう事業で経験を積ませてあげる、いろんな経験をさせてあげるというのも、学校もそれも担っていると思うんですよね。

なので、もっと経験値を積む、勉強だけじゃなくて、そこにもっと時間、予算、いろいろ割いていけば、今まで出てきたキーワードのところも高められていくんじゃないかなって漠然と思いました。

○橋本会長 ありがとうございます。

○委員 コミュニケーションの話が幾つか出ていて、そこで感じるのが、多様性とは結びつきがすごい強いなと思っています。

小学校とかの授業って、やっぱり手を挙げさせて、当てられて、会話、発話するという感じになっているんですけども、会社にいても、すぐ自分の考えが思い浮かぶ人と

そうじゃない人というのは、もう事実として存在していて、それをどう受け取れるかというのはとても大切だなと思っています。

それができる手段としてのICTというのはあると思っていまして、例えばそれが場所として離れた不登校の方がいたときに、自宅からでも意見が出せたりとか、例えば身体が不自由だったとしても、例えば言葉とか何らかの方法でICTを通じて意見表明したりできるというところがあると思うので、何かここを、この多様性をどういうふうに捨っていくのかというのは、この学校教育計画の中でぜひ考えていき、自分自身もそこにしっかり入って考えていきたいなと思いますし、何かそういうところが、こういう武蔵野市の施策に入ってくるとよりよいものになるんじゃないかなと思いました。

コミュニケーションが大切というのは、すごい自分も共感をもちますし、そうだと思いますが、それだけやっぱ置いていかれてしまう人もいると思うので、そうならないような言葉づくり、場づくり、いろんなものをやっていけるといいなと感じます。

以上です。

○橋本会長 ありがとうございます。

○委員 どんな子どもを育てていきたいかということを見ると、私はそれを社会形成力みたいなことをイメージしています。つまり、いわゆる家庭という社会、学校という社会、地域という社会、市という社会、国や世界という、その社会を形成していく力を、子どもたちにどのように持たせていくかということがすごく大事だと思います。その中で、自由と責任ですとか、権利と義務とか、こういうようなものを1つ理念としながらも、その実践に向けてどのような学びの基本方針をつくっていくのかということを考えていくことが必要なのかなと。私も武蔵野市のことがよく分かって話をしているわけではなくて、今回こういう場に来させていただいて少しずつ武蔵野市のことが分かってきているんですけども、社会をつくっていく、担っていく、そのための社会形成力というのを1つキーワードとしながら、何かそういう権利と義務とか自由と責任、その中で自己肯定感、自己存在感を大事にしながら新たな社会を見つめていくような子どもたちが、何か武蔵野の子どもたちだなというようなイメージ、何かたくましい子どもたちというイメージもっています。

いわゆるICTの活用や知的な側面も大事だけれども、感性的な部分や能力的なこととか、態度的な側面とか、いわゆる総合的な資質・能力をもった子どもたちが未来を生き生きと生きている。皆さん方のお話を聞くとそういう子どものイメージができていて、

そんなようなところに1つ方向性があるのかなと、これは勝手な自分のイメージですけども、そんなように今思っているところです。

○橋本会長 ありがとうございます。

○委員 今お話を聞いていて、学校だけではないんだなというのが今日、話題になっていると思いました。そうなったときに、やっぱり武蔵野市は、他の委員も言われたように、どのように地域とのつながりを持っていくかというところは大事なんだなと、本校の地域の方たちとの接し方を見ているとすごく感じます。

あとは、地域と言ったときに、関前南小学校の地域ってどこからどこまでを指すんだろうというのを改めて考えなきゃいけないんだなと思います。よく中学校区という見方での地域という場合もありますし、今ここでは武蔵野市の話をしているので、武蔵野市を一体して地域として考えていくべきなのかというのも、いろいろ考えていけないといけないんだなというのをすごく感じました。

あとは、中と小だけではない、園とか高校とか大学とかというところもつなげていくという意味での、広い意味でのコミュニケーションというところが1つ何かキーワードになるかなと感じました。

○橋本会長 ありがとうございます。

お時間が来ちゃったんですけども、またこれについては引き続きやっていきますので、あとは、またご意見とかありましたらメール等でぜひお寄せいただけるとありがたいなと思います。

今の話を受けて何か事務局からありますか。

○高丸統括指導主事 様々なキーワードをいただきまして、ありがとうございました。かなり本質的なところに迫るものが出てきたのではないかと思いますので、また次回の審議会のときに皆様にご議論いただけるたたき台を、しっかりと用意させていただきたいと思っております。

○橋本会長 ありがとうございます。

やはり基本理念、考え方、施策の方向性というのがびしっときていませんと、こういったキーワードもただ躍っているだけになっちゃいますので、今いろいろとご意見いただいたものを、また少し事務局で整理していただいたりしながら、また次回、検討していきたいと思います。整理していただいた資料が、委員の発言につながっているなというところはありますので、その辺も含めてどういうふうに図式化するかというか、表現

していくかということも考えていかなくちゃいけないなと思いました。

ありがとうございました。

時間が来ていまして、次の議題のほうに移りたいと思います。

続きまして、議題の4ですがその他で、事務局のほうからありますでしょうか。

○牛込教育企画課長 では、事務局から連絡事項ということでお伝えをさせていただきます。次回の審議会につきましては令和6年1月22日の月曜日です。午後6時半から8時半までということで、第1回をやった三鷹駅北口の芸能劇場で開催したいと思いますので、よろしくお願ひします。

また、会議録については、前回と同様、皆様にメールでお送りいたしますので、ご確認の上、返信をしていただければと思います。

そして、3点目。また来年度も引き続き審議会をやっていきますので、12月頃になろうかと思いますが、また来年度の予定ということで、その時点での予定を教えてください。

以上でございます。

○橋本会長 ありがとうございます。

○委員 追加情報ですけれども、報道でご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、松下武蔵野市長が11月30日をもって退職する旨を議長に11月10日に提出されました。市長選挙はいつかという話があったんですけれども、最新情報で今日決まりまして、12月24日、クリスマスイブの日に市長選挙が行われるというところになりました。特に審議会に直接影響することはないとは思いますが、次回からは新しい首長の体制で行われるというところで、情報提供をいたしました。

以上です。

○橋本会長 ありがとうございます。貴重なといいますか、どっきりするようなお話ですし、選挙もあるということですが、引き続きこの会議のほうは続くということですので、よろしくお願ひいたします。

では、第3回目の会議、これで終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後 9時04分閉会